

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第1242号	氏名	成松 政治
論文審査担当者		主査教授	永安 武
		副査教授	江口 勝美
		副査教授	伊藤 敬
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、p53 を発現しない甲状腺未分化癌における p53 遺伝子導入の治療的有用性を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 p53 を発現していない甲状腺未分化癌細胞株 FRO と温度感受性変異 p53 遺伝子を安定発現している tsFRO 細胞を用いて、それぞれの細胞の抗癌剤および放射線に対する感受性や血管新生誘導に関して、比較検討したもので研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 tsFRO 細胞では、p53 遺伝子の発現に伴い細胞増殖抑制効果と放射線感受性亢進が認められたが、抗癌剤感受性には変化は認められなかった。また、血管新生に関しては、p53 は VEGF 発現及び血管内皮細胞遊走試験には影響を与えなかった。このことより、p53 遺伝子治療と放射線療法の併用は臨床上有用であることが示唆された。</p>			
<p>以上のように本論文は甲状腺未分化癌における p53 遺伝子導入の治療の確立に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			